

利用用途ごとの要求品質その2 (スラリー化安定処理)

表 スラリー化安定処理土の用途別品質基準

用途	適用対象	試験項目	基準値		試験頻度		
地下構造物の埋戻し	共同溝躯体 建築地下部 地下駐車場 地下鉄駅舎 開削地下鉄 など	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	40mm以下				
		一軸圧縮強さ	7日後 200kN/m ² 以上 ^{注2)}		1回(3本)/日		
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
		ブリージング率	1%未満		1回/日		
		処理土の密度	1.50t/m ³ 以上		1回/50m ²		
土木構造物の裏込め	擁壁 カルバートなど	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	40mm以下				
		一軸圧縮強さ	7日後 200kN/m ² 以上 ^{注2)}		1回(3本)/日		
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
		ブリージング率	1%未満		1回/日		
		処理土の密度	1.50t/m ³ 以上		1回/50m ²		
地下空間の充填	廃坑や坑道の充填	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	40mm以下				
		一軸圧縮強さ	構造的に耐力が要求される場合	7日後 周辺地山以上	1回(3本)/日		
			構造的に耐力が要求されない場合	7日後 200kN/m ² 以上			
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
		ブリージング率	3%未満 ^{注3)}		1回/日		
		処理土の密度	1.35t/m ³ 以上		1回/50m ²		
小規模空洞の充填	路面下空洞 構造物背面の空洞 廃管の内部 など	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	40mm以下				
		一軸圧縮強さ	7日後 200kN/m ² 以上 ^{注2)}		1回(3本)/日		
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
		ブリージング率	3%未満 ^{注3)}		1回/日		
		処理土の密度	1.35t/m ³ 以上		1回/50m ²		
埋設管の埋戻し	ガス管 上下水道管 など	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	管周部	13mm以下			
			その他の部分	40mm以下			
		一軸圧縮強さ	車道下の場合	即日復旧の場合	4時間後	130kN/m ² 以上	1回(3本)/日
				後日復旧の場合	28日後	500kN/m ² 以下	
					交通解放時	130kN/m ² 以上	
			歩道下の場合	即日復旧の場合	4時間後	50kN/m ² 以上	
				後日復旧の場合	28日後	500kN/m ² 以下	
					交通解放時	50kN/m ² 以上	
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
ブリージング率	3%未満 ^{注3)}		1回/日				
処理土の密度	1.35t/m ³ 以上		1回/50m ²				
埋設管の受け防護	ガス管 上下水道管 など	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	40mm以下				
		一軸圧縮強さ	7日後 周辺地山以上		1回(3本)/日		
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
		ブリージング率	1%未満		1回/日		
		処理土の密度	1.50t/m ³ 以上		1回/50m ²		
基礎周辺の埋戻し	橋脚基礎の周辺 杭基礎周辺部 構造物下に生じた空洞	発生土の土質	すべての発生土 ^{注1)}				
		最大粒径	40mm以下				
		一軸圧縮強さ	7日後 300kN/m ² 以上 ^{注2)}		1回(3本)/日		
		フロー値	160mm以上		1回/50m ²		
		ブリージング率	1%未満		1回/日		
		処理土の密度	1.50t/m ³ 以上		1回/50m ²		

注1) 経済性では第3種および第4種発生土、泥土を再生利用した方が有利である。ただし汚染土は除く。
 注2) 路面に近く再掘削が予想される部分に適用する場合は、28日後の一軸圧縮強さを500kN/m²以下とする。
 注3) 極めて精度の高い充填性が要求される場合や車道下に用いる場合は、1%未満とする。

出典：建設省土木研究所編集：流動化処理土利用技術マニュアル、(財)日本建設業経営協会中央技術研究所、1997.12.